

明るい家庭を築くために

戸田中学校 一年 秋元 優希

僕は自他共に認める「オシャベリ」です。友達とはもちろん、先輩や先生方、祖父母、近所のおじさんたち：あらゆる人たちとよく話します。

中でも一番、僕のオシャベリが発揮されるのは家族の団らんときです。父、母、二人の姉、そして僕が食卓に揃うと、かなりにぎやかな一家です。話が盛り上がってくる、それまでつけていたテレビを、

「うるさいから。」

と言って消してしまったり、僕たちの笑い声に階下に住む祖母が、

「何、楽しそうな話をしているの？」

と、興味津々でのぞきに上がって来たりする程です。

さて、僕たち家族はいったい何の話をしているのでしよう？

それは本当に本当にごく日常のことです。部活で先生にしかられた話、帰り道にかわいい犬が散歩していた話、昨日は十三時間も眠り続けた話：そんなたわいもないことから、話がどんどん広がっていくのです。

ところで、今では大学生と高校生の姉たちには、それぞれ反抗期がありました。母とは普通に話しているのに、僕にはいつもけんか腰に話しかけ、父に至っては自分たちからはほとんど話しかけない状態でした。けれども今ではすっかり元のオシヤベリ仲間。それは父のめげない性格のおかげだと僕は思います。

父は「学校行事」というものが大好きで、都合のつく限り、式や運動会、参観日に顔を出します。それは、姉たちが反抗期するときも全く変わりませんでした。そうしている内に先生や友達の名前、部活のことなど、子供たちの全てを知り、共通の話題が増えていきました。いつの間にか姉たちもオシヤベリに入ってくるようになりました。

このように、僕にとっては楽しい毎日なのに、最近家族四人が僕の反抗期を心待ちにしているようなんです。あまりにオシヤベリすぎる僕がうっとうしいと思うときがあるみたいで、

「優希がしやべらなくなるところを見てみたい。」

と言うのです。でも、もちろんそんなことになるはずがありません。なぜなら僕は父を見習って、将来、笑いの絶えない明るく楽しい家庭を築くことが目標だからです。そのために、僕はこの持って生まれた「オシヤベリ」という才能をこれからもぐんぐん伸ばしていくつもりなのですから。